

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3591500149		
法人名	医療法人社団生和会		
事業所名	グループホーム和み 福谷の森		
所在地	山口県周南市岡田町3番30		
自己評価作成日	平成25年12月22日	評価結果市町受理日	平成26年8月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成26年1月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域行事への参加では自治会のご協力の下、季節行事(どんど焼きから始まり、運動会や夏祭りへの参加を行っています。今年は、近隣の皆様の消防訓練の参加も頂き、利用者さんの安心安楽に向けた支援に向け、取り組んでいます。三度の食事職員と一緒に楽しく作ながら召し上がっていただいています。利用者の皆さんも無理なく自然に生活に参加される事で、ご自身の出来る力を発揮され、表情豊かに生き生きと生活を送られています。ご自宅ではありませんが、「もう少しここに居てもいいかな」と感じて頂けるよう職員一同支援させて頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

年2回、消防署の協力を得て夜間想定避難訓練を地域住民も参加されて実施しておられ、地域住民の方に避難時の利用者の見守りや避難誘導をお願いしている他、運営推進会議時には事業所独自で家族や地域メンバー、利用者と一緒に避難経路の確認や通報訓練等を実施しておられます。自治会長の協力を得て地域との緊急連絡網を作成され、連絡方法を確認しておられるなど、災害時の地域との協力体制を構築されています。食事は三食とも事業所でつくっておられます。食材は利用者が季節を感じられ、美味しく食べることができるよう、地元の旬の食材や事業所で採れた新鮮な野菜などを利用されています。ユニットごとに献立にも工夫され、利用者は味付けや野菜の下ごしらえ、盛り付け、配膳などできることを職員と一緒にしておられ、月1回の外食、ピザの出前、オードブル形式の昼食、手作り弁当持参の外食、おやつづくり、季節の行事食など、食事が楽しみなものになるように支援しておられます。家族からの要望をうけて、事業所の行事の年間計画を作成して家族に送付しておられる他、職員からの提案で、事業所の行事等での利用者の写真を取めた家族向けのCDを作成されて家族に渡しておられるなど、本人を共に支え合う家族との関係づくりに取り組まれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域とのつながりの大切さを踏まえて作成した理念を掲示し、ケア日誌や業務記録など目に入りやすい場所にファイルし、職員の共有を図り実践に向け努力している。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、事業所内に掲示する他、ケア日誌にも記載している。ケアプラン作成時や月1回の職員会議で理念を共有して、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会にも加入しており、地域行事への参加も出来ている。又、地域の皆様からの協力も得られ消防訓練にも参加出来ている。	自治会に加入し、地域行事のどんど焼きや権現祭り、夏祭り、地区運動会に利用者と職員と一緒に参加している。保育園や小学校の運動会の見学に行く他、ボランティア(ひよっこ踊り、よさこい、手品、歌、傾聴)の来訪がある。近隣の人が年3回、事業所の敷地内でポンポン菓子づくりを利用者と一緒に楽しんでいるなど、地域と日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設内の見学の受け入れや、ホーム主催の行事などの交流などの場を設けている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	全職員へ配布し、自己評価の記入を行い、ミーティングで話し合いながら、リーダー管理者でまとめた。日々のケアの振り返りにもなっている。	評価の意義について話し合い、自己評価をするための書類を全職員に配布して、各自が記入後に管理者とユニットリーダーでまとめ、月1回の職員会議で検討して仕上げていく。運営推進会議に多くの家族の参加を得るため、案内状を全家族に送付したり、毎月の利用請求書と事業所だよりの送付時に意見、要望書を同封して、家族の意見が出しやすい機会を設けている他、避難訓練への地域住民の参加や自治会長の協力を得て地域との緊急時連絡網を作成するなど、評価を活かして改善に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度開催しており、ホームの運営状況を報告しながら、意見を頂いている。参加者が頂ける運営推進会議に合わせ、消防訓練なども行っている。ご家族の素朴な意見から、サービスへも繋げていった。	2ヶ月に1回開催し、運営状況や利用者の状況、ヒヤリハット報告、行事報告、外部評価の結果等について報告をし、話し合っている。他、火災時の避難訓練を実施している。職員間の連絡網について「一斉メール」にはどうかという意見があり、連絡方法について改善するなど、そこでの意見を活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	在宅酸素の受け入れなど、疑問点をすぐに市町担当者につなげ、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えている。	担当課とは、運営推進会議の他、出向いたり、電話などで相談し助言を得たり、情報交換をするなど、協力関係を築くよう取り組んでいる。地域包括支援センターとは感染症等について相談し助言を得るなど、連携している。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作成し、研修をミーティングに取り入れ、虐待についての正しい理解をし、職員同士で声を掛け合いながら、虐待へつながらないケアしている。	マニュアルに基づいて研修を実施し、職員は理解して抑制や拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関は施錠をしないで、利用者の出入りに気を配り、外出を察知した場合は利用者と一緒に出かけるように心掛けている。スピーチロックについては管理者が助言をする他、職員相互で声を掛け合い留意するようにしている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会の中で、高齢者虐待防止について学び、1人の職員が抱え込むのではなく、助けを求められる環境づくり、職員同士の連携が図れるようにしている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要があれば、御家族へアドバイスを行い、実際に制度を活用されている御家族も数名おられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約時には、時間をゆっくりと持ち、不安や疑問を伺い、納得されるまで説明を行っている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内の相談窓口や、第三者委員を明記し、家族参加型行事への介護相談員の参加や、運営推進会議での意見交換など、外部者へ意見や苦情の出やすい機会を持ち、ミーティングにて職員で改善できる様努めている。	苦情、相談の受付体制や処理手続きを定め、第三者委員を明示し、契約時に家族に説明している。玄関に意見箱を設置している。運営推進会議時、面会時、年3回の家族の行事参加時、毎月の請求書と事業所だよりの送付時、電話等で意見や要望を聞く機会を設けている。月1回、介護相談員の訪問があり、利用者の意見を聞いて、事業所に伝えている。家族参加行事の案内が20日前では参加しにくい時があるという意見があり、話し合いをして年1回、年間計画を作成して送付するなど、反映させている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日勤者としても勤務し、法人内での月一度の定例会議にて、ユニット会議で出た職員の意見や提案を報告している。	月1回の職員会議や日常の業務の中で職員の意見を聞く機会を設けている他、法人が職員アンケートを実施している。モップの購入や夜勤帯の業務変更、家族向けのCD(利用者の行事での様子の写真など)の作成や利用者と一緒に調理をするための包丁やまな板を増やすなどの提案を反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	タイムカードを導入し、個々の勤務状態を把握、職環境を整備することで、一人一人の負担の軽減を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ミーティングで内部研修を行い、外部研修へは勤務の一環として受講の機会を設け、受講者が研修内容を伝達している。実践の中で発生するケアの問題点や疑問点については、その都度アドバイスが受けれる状況を作っている。	外部研修は情報を伝え、希望や段階に応じて勤務の一環として参加の機会を提供している。受講後は復命報告をして資料を回覧している他、研修資料を基にマニュアル化を図っている。内部研修は年間計画を作成して月1回(プライバシーや倫理、身体拘束、事故発生防止など)実施している。山口県宅老所・グループホーム連絡会周南地区の年3回の学習会に管理者や職員は参加している。新人研修を実施する他、日常業務の中で介護技術等を学べるように支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山口県グループホーム連絡会、周南・光地区学習会への参加などで、ネットワークを広げ、勉強会を通じてサービスの質の向上に向け取り組んでいる。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者やご家族のお話を時間をかけ伺い、不安なまま、入所へならない様になっている。入所後も、時間の許される限りの訪問も努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	時間の許される限りの訪問を勧め、御家族との対話を大切にし、信頼関係が築けるようにしている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	問い合わせの段階から、要望状況を見極め、他サービスのご案内や、お急ぎであれば他グループホームの紹介など、適切に支援が行えるよう支援している。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホーム内で、利用者さんが生活の中心になれるよう状況を作り出し、持てる力を無理なく発揮できる様支援しており、自然と役割が出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現状を報告し、ご自身が望まれていることに、御家族の協力の必要性を説明することで、ご協力が得られている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人の面会や電話、住み慣れた町やなじみの場所へのドライブ地域行事の参加を行っている	親戚や兄弟の面会、友人や知人の来訪、自宅への一時帰宅、馴染みの美容院の利用、家族の作品展の鑑賞、結婚式への出席、馴染みの店での買い物の他、家族の協力を得ての法事への出席や墓参り、外泊、外食など、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常的に、利用者さん同士が自然な形で会話が生まれる状況づくりや、利用者さんが利用者さんに手伝いをするなど、職員の必要以上の支援を行っていない。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所され入院された方へのお見舞いや、御気軽に不安や疑問を聞いていただける関係作りを行い、退所後にも立ち寄って下さる御家族もいらっしゃる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的に利用者とのコミュニケーションを多く図り、本人の想いを汲み取り、支援に繋げている。言語のコミュニケーションが困難な方も、スタッフとの馴染の関係作りによって、リラックスされている。	入居時に本人や家族から生活暦などの情報を得ている。日々の関わりの中での利用者の言葉や様子を介護記録やケア日誌に記録し、センター方式のシートに転記して、月1回の職員会議で確認をするようにしているが、一人ひとりの思いや意向を把握するまでには至っていない。	・思いや意向の把握の工夫

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族、近親者の情報のほかに、普段の何気ない会話から、見えてくる生活歴等も大切にしている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	前もっての支援を行わず、状況を見極め、対応し、記録に残していく事で、全職員が把握できるようにしている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月カンファレンスを行い、本人、家族の意見を元に介護計画を作成している。	月1回ケアカンファレンスを開催し、計画作成者担当者や利用者を担当する職員を中心に本人や家族の要望、主治医の意見を参考にして話し合い介護計画を作成している。6ヶ月毎にモニタリングを実施し、6ヶ月毎に見直しをしている他、要望や状況に変化のある時は、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・日誌の記入を行い、内容についてもカンファレンス時に再確認している。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	結婚式参列への送迎や、コンサートへの送迎、美術館への御家族作品出展時の展覧会参加など行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くのスーパーへの買い物、地区の行事参加など行っている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望を聞き入れ、納得の得られたかかりつけ医にて個別受診を行っている。往診も受けられる状態である。	本人や家族の希望する医療機関の受診を支援している。日常のバイタル情報を提供する他、受診結果はその都度家族に報告し、情報を共有している。緊急時にはかかりつけ医に相談して対応するなど、適切な医療を受けられるよう支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医の看護師との連携により、適切な医療が受けられる支援を行っている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時から退院後の対応について、同法人内の病院、相談員との連携を取り、本人、御家族が安心して治療に専念できる体制づくりを行っている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期にむけた方針は契約時に本人やご家族に事業所で出来る事を説明し、状況の変化に応じ、その都度本人本位で支援できるよう家族や医療機関と話をしている。	契約時に事業所でできる対応について家族に説明している。実際に重度化した場合は、家族や主治医など関係者と話し合い、医療機関や他施設への移設も含めて方針を共有して、取り組むこととしている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	マニュアルを作成し、毎月のカンファレンスでヒヤリハットの状況や対応について話し合い、より安全な体制作りを考えている。救急時の対応については、ミーティング時に再確認している。	ヒヤリハット、事故報告書にその日の職員で対応策を記録し、発生時の状況と対応策を事業所内に掲示する他、月1回の職員会議で確認し、検討して一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。年1回、普通救命講習を受講している他、嚥下障害や骨折について実践訓練を実施しているが、全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的な訓練の継続

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回、夜間の少人数体制時の防災訓練も地域の皆さんの参加を頂き、行った。	年2回、消防署の協力を得て夜間想定避難訓練や初期消火、通報訓練などを地域住民も参加して利用者と一緒に実施している。地域住民の役割として、避難時の見守りや避難誘導の確認をしている。運営推進会議時に事業所独自で家族や地域メンバー、利用者と一緒に避難経路の確認、通報訓練等を実施している。自治会長の協力を得て地域との緊急連絡網を作成し、連絡方法を確認するなど、地域との協力体制を築いている。水、食品、電池等の備蓄をしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人ファイルの保管方法の管理や、普段から、誇りやプライバシーを損ねない支援を行っている。	内部研修でプライバシーや守秘義務について学び、職員は理化して、一人ひとりの人格を尊重した声かけや対応をしている。日々の業務の中での不適切な対応等は、管理者がその都度で注意をしている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の方から、自己決定が出来る状況づくりを行い、楽しんで生活参加される支援を行っている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の皆様の状態や状況から毎日の生活や、時間の流れが出来ている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	さりげない手直しや、同じ服を着られていても、清潔が保てるよう、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	3食、事業所で手作りをし、献立から片づけまで利用者と共にいき、朝食はサンドウィッチの中にレバーやほうれん草ひじきなど苦手な物でも美味しく召し上がっていただけるよう支援している。	利用者の好みを聞いたり、収穫した野菜を利用した献立をたて、三食とも事業所で食事づくりをしている。近所のスーパーに利用者と職員が食材の買い物に出かけている他、味付け、下ごしらえ、盛り付け、配膳、テーブル拭き、食器洗いを一緒にしている。職員は利用者と同じ物を食べながら、味付けなどについての話をして食事が楽しみなものになるよう支援している。月1回の外出、ピザの出前、オーブン形式の昼食、手作り弁当を持参しての外出、おやつづくり(バーナツ、バースディケーキ、おしるこなど)、季節の行事食の他、家族の協力を得ての外出など食事を楽しむことのできる支援をしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	集計表を活用し、排泄と、飲水の状態や体重管理、また、定期的に主治医による検査などで、栄養状態のチェックを受けている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後には個別の口腔ケアを行い、毎夜ポリドントにて、義歯の預かり、消毒を行っている		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	集計表の記入により、個々の排泄のパターンを把握しており、声掛けや誘導にて、自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握して、声掛けや誘導を行いトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を料理の中にふんだんに使用し、毎日の生活の中で、清掃や散歩等、適度な運動を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	朝から夕方まで時間指定なく、入浴ができる環境にあり、気持ちよく入浴されたいくなる状況づくりで楽しませている。	入浴は基本的には9時から17時までの間となっているが、いつでも可能で利用者の希望やタイミングに合わせた支援をしている。入浴をしたくない人には職員の交代や時間の変更、声かけの工夫などを行っている。状態に応じてシャワー浴、清拭、足浴などの支援をしている。入浴剤を使用して色や香りを楽しんだり、柚子湯などで季節を楽しむなど、入浴を楽しむことができる支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠につなげて行けるよう適度な休息を取り入れながら、日中の無理なく体を動かす動作を取り入れ、就寝前の穏やかな会話などの状況づくりにて、安心して休まれるよう支援している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方時には必ず、情報提供書を職員が目を通しやすい場所へ保管し、共有している。新たに症状が発見された場合は、病状の情報を共有し、医師へ繋げている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	会話の中からでた希望を、生活の中に取り入れ、昔を懐かしみながら、大小のイベントを計画し、実行している。	編み物、下ごしらえ、味付け、食器洗い、畑づくり、花の水遣り、モップ掛け、洗濯物干し、洗濯物たたみ、ゴムの入れ替え、ボタン付け、トランプ、カルタ、折り紙、ぬり絵、テレビ視聴、カラオケ、クリスマスツリー作りなど、活躍できる場面づくりや楽しみごと、気分転換の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物、ドライブ、定期受診など、天候や利用者の状況により、徒歩や車椅子など外出支援を多く設けている。	犬の散歩、近所への散歩、スーパーへの買い物、ドライブ(上の関、錦帯橋など)、初詣、地区の運動会、保育園、小学校の運動会、動物園、季節の花見(桜、紫陽花、梅)、夏祭り、どんど焼き、権現まつりなどの他、家族の協力を得ての墓参り、法事への出席、外食など戸外に出かけられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があれば、御家族の理解の中許される金額を持たれている利用者もおられ、近所のスーパーで買い物を楽しまれる支援も行っている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話や手紙のやり取りが出来るように対応している。年賀状など担当職員と共に記入した。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた装飾をしたり、利用者のニーズに合わせた椅子等の配置など、居心地良い環境づくりを行っている。	共用空間は日よけシェードで明るさが調整できる他、加湿器を設置し、温度や湿度、換気に配慮している。壁には利用者の作品の習字や季節を感じる作品が飾ってある。窓辺にベンチを置き、畳のコーナーや長椅子、ソファを配置し、一人ひとりが居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各居室の行き来や、多様な場所で思い思い過ごされている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく使い慣れた物の持ち込みをお願いし、居室で過ごすことの多い利用者さんへは、ベッドの位置の配慮や、目のつく場所に季節を感じられる装飾を行っている	テレビ、ダンス、椅子、ソファ、テーブル、仏壇、加湿器、彫刻作品、造花、ぬいぐるみ人形、時計、カレンダー、生活用品、写真など、使い慣れた物や好みの物を持ち込み、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレも分かりやすい場所へ設計から取り入れてもらい、ごみ箱や、歯磨きなど目につきやすい場所へ置くなどの配慮を行っている。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム和み 福谷の森

作成日: 平成 26年 7月 28日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	緊急時の対応については、マニュアル作成や定期的に訓練を行っているが、新人職員の入職もあり対応に不安を感じる職員もいる。	緊急時の対応がどの職員も実践できる。	※毎月カンファレンス時、事例に基づき看護師による研修を行う。 ※普通救命講習の受講	1年
2	24	日常生活の中で利用者さんとのコミュニケーションを多く図り支援につなげるようにしているが、利用者の方が発する言葉を記録にすべて残していない事や、これまでの生活歴からの本人の想いに至っていない。	一人ひとりの思いや意向の把握を行い支援につなげる。	※本人の発する言葉を記録に残し、毎月カンファレンス時再確認行う。 ※生活歴をご家族や本人、知人などから情報を得る。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。